

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第118号

ななえ古写真物語

VOL. 118

町のはじまり

町制施行60年よせて
昭和32年
本町地区



ななえを村から町へ、という熱意は、戦後の発展の中で培われていたのだが、昭和28年6月、田村半吾村長の時代に、町制施行の申請案が村議会に提出され、満場一致で可決された。これをもって、北海道へ申請を行ったものの、審議の結果、町を形成する連担戸数が、七飯・大中山・大沼の三箇所に分散しており、時期尚早とされ、その願いはかなわなかった。

しかし、村民の町制施行への情熱は厚く、実現に向けて、再三の陳情を重ねていた。そんな中、昭和31年に再申請することとなり、町制施行促進期成同盟が誕生するなど、意欲を燃やしていた。そして、6月の村議会で決議され、大久保熊太郎村長から、北海道知事へ申請書が提出された。この申請を受けた道は、12月の道議会へ提案。全員異議なく可決されたという。この決定は総理府へ送付され、官報第九〇四号に、七飯村を七飯町とする旨の届出が、昭和32年1月1日から効力を生ずるものとするという、告示が載せられた。

かくして、昭和32年1月1日。町役場に関係者一同が集まり、大久保熊太郎町長の式辞によって、町制施行が公布され、七飯町が誕生したのである。

折しも、この年は町開基八十周年の節目でもあったので、祝賀会などの記念行事は、厳冬期をさけた8月10日から20日にかけて、花火大会や旗行列、NHKのど自慢、盆踊り大会など、種々様々な記念行事を行い、14日に七飯中学校において記念祝賀会が執り行われた。まさに、町全体が念願だった町制への昇格を喜んだ10日間だったに違いない。

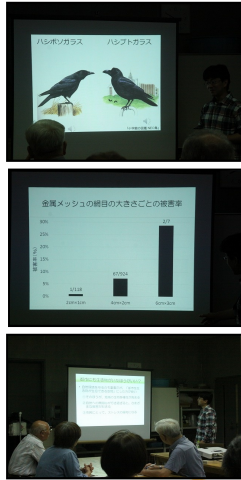
ところが、当館には、その記録を伝える写真が、あまり残されておらず、上に紹介したのも、数少ない写真の中から、小学生による旗行列の様子を写したものである。日の丸を片手に、子どもたちが列をなして歩いているのは、国道5号。沿道に並ぶ建物の中に郵便局のマークと、判読は難しいが「七飯郵便局」の看板が掲げられているので、現在の本町地区であることがわかる。行列の向うには、円筒の郵便ポストに登り写真を撮っている人も見受けられる。今では考えにくい光景かもしれないが、これも時代なのだろう。

町制施行から60年の節目を迎える本年。様々な思惑が交錯し、町民をなおざりにしている感がする。だとすれば、今一度、原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

11月の予定

6日

『夜の博物館』前期最終夜は「身近な鳥の生活」と題し、北海道教育大学函館校の三上修氏を講師に迎え、鳥にとっての都市環境はどんなものかを考えながら、スズメやカラスなどの生態を学びました。様々な角度から鳥たちの暮らしのお話しを進め、受講者の方からは、実体験を交えた質問が出ました。その中で鳥のさえずりは言語化できるか？という質問は、シジュウカラは、人間以外の最も言語に近い組み合わせで使え、20くらいの言葉があると教わりました。奥の深い鳥の生態に、新たな知識が増えた夜となりました。



23日

ジュニア探検クラブは、土偶づくりに挑戦しました。まずは町内で出土した土偶を手にとってじっくりと観察、次に全国で出土した土偶をスライドで見て、イメージを膨らませていきます。堅い粘土と格闘し、思い思いのデザインの土偶は、たくさんの工夫を経て、出来上がりました。「今日は土偶作りと聞いて正直、来るのが嫌だったけど意外と楽しかったよ。」と教えてくれた男の子。乾燥、野焼きを終えて、町民文化祭でお披露目となります。



25日

歴史館は、一年を通して、道内外から団体でお越し頂くことが、多くあります。この日は、八雲町からのお客さま。七飯町も八雲町も、共に農業と酪農という共通点もあり、道具の使い方を、覚えている方々が、ブラウや千歯、養蚕の器械などの思い出を、生き生きと、お話しをしている姿が印象的でした。各地の方々とお話しをする機会から、展示物についての使い方などを、教えて頂くこともあります。そうしたお客様が、足を運んでみて良かったと、思ってもらえる環境づくりに、これからも工夫を重ねていきます。



1	水
2	木
3	金 文化の日
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土 ジュニア探検クラブ
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木 勤労感謝の日
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木

11月の休館日はありません

コットン・ボール

野草園のワタが実を結んでいます。少し重そうにうつむく姿、むかし日本では、この実のことを「桃」と言ったそう。白い綿がはじけるまで、もうすぐです。



編集後記 ~tawagoto~

石臼の目立てに挑戦している。極度に摩耗が進み、うまくすりつぶせないでいたのを、なんとか解消したかったのだ。現代の機械(グラインダー)を駆使して、両面を水平にし、溝を刻んでゆく。理論としては単純なのだろうが、これがなかなか難しい。ややもすると、自分で前髪を揃えていたはずなのに、いつの間にかおかしくなった状態である。機械を使わない職人技の凄さを痛感している。仕上がるのは、いつになるやら...。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Richard 第118号

平成29年10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp